

事業の経緯について

世田谷区においては、東日本大震災の被災地である宮城県南三陸町に、震災直後から応援職員を派遣するなどして復興に努めているところであり、「特定非営利活動法人 世田谷のみどりと防災を考える会」（以下当会）においても平成25年10月21日の訪問に続き、同町からの要請に基づき平成26年4月18日に町立「ひころの里」の保全のための伐採・支障枝剪定の支援事業を行いました。

当会では被災地支援について継続して取り組むことを決定し、同町からの新たな要請である歌津崎尾崎神社の松枯れ対策を平成27年度の事業として実施いたしました。歌津崎先端に位置する尾崎神社周辺は、松の木とリアス式海岸が独特な景観を生み出した風光明媚な景勝地です。しかしながら近年「マツノザイセンチュウ」による「松枯れ病」が拡大し、かつての景観に大きな被害を与えています。尾崎神社建築物周辺でも多くの松の木が枯損して、倒木により建屋に被害を与える恐れがある樹木について伐採作業が急務となっていました。現場は車両・重機類が進入できず人力での作業になるため、緊急性および危険性の高い枯損木に限定して5本の地上部伐採作業を行いました。

しかしながらクロマツの上部伐採は危険回避の対処に過ぎず、残念なことに景観の向上と環境の回復に役立つ事にはなりません。そこで「全国山林種苗協同組合連合会」の協力を得て、「マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ」の苗木を購入し、平成28年度の支援事業としてクロマツ苗を植樹して、南三陸町の環境の回復に取り組む事といたしました。

事業の概要について

南三陸町産業振興課及び教育委員会のご協力を仰ぎ、当地に伊里前（いさとまえ）小学校・名足（なたり）小学校の生徒父兄を招いて苗木の植樹会を開催する事といたします。

抵抗性クロマツ苗12cmポット（大分県樹苗生産農業協同組合産） 500鉢

活動の実地について

平成28年6月3日午前4時に世田谷を出発し、常磐自動車道を経由して午前10時過ぎに南三陸町歌津崎尾崎神社に到着しました。まず苗木を漬け置くための仮設水槽(4m×3.5m)を作成しました。正午前に大分県より送られてきた抵抗性クロマツの苗木を受け取り水槽にならべ、南三陸町から支給された給水車によって注水を行いました。午後からは、植樹場所の草刈及び整地などの準備を行ったあと、植樹会で植付けする場所に竹の目串を挿しマーキングを行いました。同時に、植樹会で一般参加者が植えるには危険な箇所を植樹を行いました。担当した会員は卓越したツリークライミングの技術を駆使し、断崖絶壁を20m程まで降下し植樹を行いました。

二日目6月4日は8時より作業を開始いたしました。植樹会で植えるマーキング箇所に苗木を配り、手渡しする固形肥料の袋づめを行いました。再び崖地を降下し、東日本大震災の津波による漂着物の除去作業を、南三陸森林組合のお手伝いも得て行いました。9時頃から町立伊里前（いさとまえ）小学校と名足（なたり）小学校の生徒父兄、近隣住民の泊浜契約会の皆様、南三陸町森林組合の皆様、副町長はじめ南三陸町職員の皆様、50名ほどが会場に参集されました。午前9時半より開会式が始まり、最知明副町長に御挨拶をいただいたのち、当会からは被災された皆様に対するお見舞いの言葉と、まだ復旧も半ばですがこれまでの大変な努力について敬意をお伝えし、当会の支援事業の概略をご説明させていただきました。つづいて「松枯れ病」及び「抵抗性クロマツ苗」についてのお話をさせていただき、植樹の方法として、植え穴の大きさや肥料の入れ方などの指導を行いました。植樹会では参加者を10名ほどのグループに分け、各グループに会員が1名付いてクロマツの植付けを開始しました。周辺を管理していただいている地元の「泊浜契約会」の皆様・森林組合の方にもお手伝いを賜りました。このようにして二日間で崖地に150本、平地に350本、合計で500本の植樹を被災地支援事業として無事に行う事が出来ました。

今回の南三陸町支援事業では、昨年の「松枯れ病」被害木の撤去に引き続き、環境回復と景観保護のための事業を行う事が出来ました。いずれも私達の特長な技能で支援活動を行うことができましたが、特に今回の「抵抗性クロマツ苗」の植樹は、尾崎神社周辺の松の木とリアス式海岸が生み出す景勝地の復興の契機になる事と期待をしています。またこのイベントが、大震災以来途絶えていた「南三陸町緑化推進委員会」再開の最初の活動になった事をご報告いただき、誠に嬉しく思います。



歌津崎周辺における「松枯れ病」の被害状況



抵抗性クロマツ苗木10cmポット(大分県産)



南三陸町給水車による注水作業



植樹場所草刈作業



津波による漂着物除去 (協力=南三陸町森林組合さん)



当会員によるツリークライミング技術を駆使した崖地への植樹



開会式の模様（最知副町長のご挨拶）



生徒父兄による植樹



生徒父兄による植樹（協力=泊浜契約会さん）



生徒父兄による植樹



植樹後状況



植樹が終わって参加者全員の記念撮影

南三陸町では、被災から5年3カ月が経過した今でも復興は半ばの状態です。未だに仮設住宅での生活も続き、まだ被災は住民の方の中で継続している状況です。そのような中で、子どもたちも、クロマツの苗も、すくすくと元気に成長する事を心から願いつつ帰路につきました。私達は今後も自らの職業としての能力を持って、被災した方達を応援してまいります。

最後に南三陸町との調整をしていただいた世田谷総合支所地域振興課防災担当の志村有司係長、ならびに南三陸町産業振興課及び教育委員会のご協力に深く感謝いたします。

東日本大震災被災地支援事業 (特定非営利活動法人 世田谷のみどりと防災を考える会)

宮城県本吉郡南三陸町歌津尾崎 29-32 泊浜尾崎神社

松枯れ病による森林被害回復のための抵抗性マツ苗植樹

平成28年6月3日4日

参加者氏名 吉村長泰 吉村造園(株)・志村大治 第一緑興(株)・糸川俊也 (株)石勝エクステリア
上野伸 (株)上仁・林健一郎 (有)和晃造園土木・齋藤悟 緑進造園(株) 以上6名